



《2021.12.8 館林市議会第4回定例会一般質問から》

「まちのにぎわい」創出について 市長はどのように考えているのか？



まず、私の思い描くまちの原風景と、そこに住まう人々が創出する「まちのにぎわい」のイメージを申し上げます。例えば、夏であれば早朝ラジオ体操の音楽が流れ、散歩で道行く人たちの明るい挨拶、歴史ある街並みに響く子どもたちの元気な声、木々から聞こえる鳥のさえずり、そんなシーンを思い浮かべます。

今、日本中で、この館林でも高齢化、人口減少や空き店舗の増加などに代表される喫緊の課題が山積しているのが事実です。それらの課題解決のために様々な取り組み、推進策を実施しているところであり、目に見える成果が出ているかと言われれば厳しいところもあります。しかし、館林は胸を張れる歴史や文化、里沼に代表される自然豊かな魅力あるまちです。まちの持つ多くの魅力ある資源を改めて磨き直し、人が行きかう明るく活力あるまちづくりを官民協働で目指して行きたいと思えます。館林の冬の風物詩、駅前通りから市役所までの約900mのイルミネーションも始まりました。私も当初から関わり、これも官民協働事業として長く歴史あるイベントです。

まちをつなぎ、きずく、次世代のために。こういった強い思いを持ってさらに官民協働をより充実させ、しっかり街づくりに取り組んで行く所存です。



\\ CHECK!! /

多田善洋プロフィール

1960年3月11日生。A型
館林市立第二小学校、第一中学校を卒業後、佐野日本大学高等学校、日本大学経済学部を卒業。16年間のサラリーマン生活(シャープ株)を送る。

平成10年㈱クリエイティブと代表取締役。
平成18年9月から館林市議会議員(正副議長歴任)。さらに平成29年5月から群馬県議会議員(常任委員会正副委員長などを歴任)。

令和3年4月2日、第7代館林市長に就任。

座右の銘は
「今日も生涯の一日なり」

皆さまに感謝

今の仕事がこれほど多くの皆さんに支えられているのかと、改めて思っています。人間の一生は、誕生から成長、社会の一員へ。仕事や趣味、地域との交流、時には病気になる、やがて高齢化をむかえます。それぞれにご苦労があり、多様な人生を送られる7万5千人の市民の皆さまによって、この館林が成り立っています。

そのようななか、新型コロナウイルスが発生しました。しかし、皆さんが感染予防のためにあらゆる機会を通して声を掛け合い、自粛をしながら創意工夫によって一日一日を過ごされています。これからも感染予防を通して、未来のための取り組みを進めて参ります。皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。多様な方々が織りなす館林のまちづくりと一緒に進めてまいりましょう。



館林市役所「城町食堂」前のアンプレラスカイ。

つなぎ きずく 次世代のために

Do^{ドゥ!} 2022 春号 よしひろ 多田善洋の活動報告



多田善洋後援会

〒374-0024 館林市本町4-14-1

TEL: 72-7515 FAX: 72-7525 E-mail: tadanet@nifty.com URL: http://www.tadanet.jp

《2022 後援会報 討議資料》

多田よしひろ 検索





1月

一日も早い新型コロナウイルスの終息を願って初詣。堀工町のどんと焼きでは皆さまの無病息災を祈りました



2月

市長選挙に向けて県議会議員を辞職。県庁前の「ぐんまちゃん」ともお別れ

コロナ禍で3密を回避しながら「対話・協働・行動」で市民に寄り添う市政を訴えました



4月

市庁舎初登庁。支援者の皆様のおかげで館林市の将来に向けた仕事をさせて頂くことになりました



5月

- つつじ祭り。つつじが岡公園は館林市の宝。観光資源をどう生かすか？
- 災害時における民間施設の利用に関する協定締結など多くの企業の皆様のおかげで非常時の体制が整っていきます

昨年を振り返って

令和元年も押し迫った12月、突然の新型コロナウイルスの発生報告によって、その後の私たちの生活は一変しました。

国内でも老若男女問わずその影響は、働く人、学ぶ人、趣味を楽しむ人、病気と闘う人、また、それらを支える人々など、赤ちゃんから高齢者まで、3密を回避し、時間と場所と行動が制限されました。

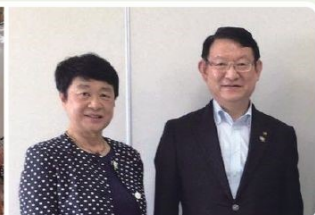
まさにこの2年間は、新型コロナウイルスとの闘いとも言える毎日でした。

私は、昨年4月から皆様との距離も一段と近くなり、効率的なワクチン接種のために医療関係者の皆様との連携に努めました。さらに感染予防のため児童生徒にマスクや抗原検査キットの無償配布に取り組みました。そして今、市民の皆様と職員との英知を結集しながら新たな変異株の出現など、急増する感染症対策に取り組んでいます。



6月

ワクチン接種にご支援を頂く医療関係者の皆様へ感謝を申し上げ、接種会場を視察



向井千秋記念子ども科学館は開館30周年。向井さんのご指導やボランティアのご協力のおかげで近隣にない充実した科学館運営が行われています



7月

- 地域防災拠点である「館林市消防団第7分団詰所」開所式。情熱あふれる地域力を実感
- 文豪山田花袋も詠んだ城沼の風景。花ハスクルーズは当時の舟遊びにオーバーラップします
- 今年こそは館林祭りを開きたい

緊急事態宣言

8月

群馬県の警戒度も上がり、「まん延防止等重点措置」から「緊急事態宣言」に。8月初旬から9月末まで「不要不急」という言葉が常に私たちに緊張感を与えました

9月

館林商工会議所から要望書を受け取りました。来年度に向け今後も連携を図っていきます。



あらためて“ふるさと館林”を想う

令和元年5月、館林市の里沼が日本遺産に認定されました。これは一朝一夕に到達できるものではなく、先人から脈々と守り伝えられてきた伝統と文化、自然環境を市民のふる里として大事に守ってきたからに他なりません。心から敬意と感謝を申し上げます。

今後はさらに環境保全、観光振興など移住定住を見越した、館林ならではの食文化やアウトドアなどの機会の提供に努めて参ります。移住を検討されている方にとって「便利でちょっどいい田舎・館林」だと確信をしています。

生まれ育ったこの館林を誇りに思う市民を一人でも多くすることが私の務めです。そのためにも、活力、魅力、創造力のあるまちを目指してまいります。

今やるべきことは“コロナ対策と投資”

私の政治スタイルは、対話と協働そして行動です。

今、私の昼食の大半は、「まちめしプロジェクト」という市内の食堂などが参加してコロナに負けないように力を合わせて乗り切ろうという日替り的な昼食を食べています。各店の個性が出て飽きない、まさに商いを実践されています。

さらに今新たなチャレンジとして、多方面からまちづくりを推進されていますが、実際に活動されている多くの市民の皆さんと協働し、豊かな実りのための種をまき、市民や民間事業者の方との連携と行動によって、将来のためのハード・ソフトの投資をする時です。

一例をあげれば産業団地の造成と、ほ場整備、公立幼稚園と保育園を統合した認定こども園、使いやすい館林インターチェンジの改造など将来を見据えた施策が必要です。

「里沼の息づく次世代へ安心をつなぐ、暮らしやすいまち館林」の創造に向けて邁進してまいります。

コロナ禍に、ただひたすら息をひそめて春を待つのではなく、様々な変化に対応しサービスを提供できる仕組みと体制を整えなければなりません。その一歩を踏み出した一年であったと実感しています。

後田善洋

10月

慶友会と「災害時における避難者の人的支援に関する協定」締結しました。企業、機関、団体との包括協定や、市内観光を容易にする「ぼんチャリ」、子どものための乳酸菌飲料、炊き出しセットの寄付など多方面にわたるご支援に感謝します

- 昨年は中止だった県民スポーツ大会結団式を挙行
- 渡瀬地区防災訓練
- 館林に移住された方々との意見交換会

11月

- 友好都市名護市来訪。市の総合戦略の意見交換や各種施設の視察をされました
- 市民歩け歩け大会参加
- 観光案内所移転オープン
- 「つなぐまちなかフェスinたてばやし」まず、種をまくことから始めなければ
- 緑町中央公園で馬とのふれあい。仕事も人馬一体で臨みたい



12月

- Gメッセ群馬で行われた「わたしと宇宙展」地球規模の諸課題に目を向けた企画
- 群馬トヨタグループとの電動車を活用した給電デモンストレーション
- 県知事と県内12市長との朝の会議に臨む